



情報の時代だからこそ。
正直によいものを
売っていく。

四国霊場第25番札所「津照寺」のすぐ近く、室津港上に、室戸の鮮魚を一手に商う浦戸屋はある。90年以上続く老舗を継いでいるのが、岡峯利明。3代目だ。

京都の大学に進み、高知市内で6年間、会計事務所勤めを経験した。「長男やし、ゆくゆくは室戸に帰るつもりやった」。先代とともに魚を目利きし、高知や安芸のお客さんはもとより、お遍路さんなど県外からの客にも愛される鮮魚店だ。

店の一角には、山をバックにした登山姿の若者たちの写真。大学時代はワンダーフォーゲル部で日本中の山を駆け巡った。もう一角にはたくさんCDとデッキがどんと。ジャズ研究会で腕を鳴らしたトロンボーンは、高校のプラスバンド部時代から。

「今ではテレビで『日本名山』を観るのが楽しみ。楽器は玄関に置きっぱなし」と言うが、夢中になっていたふたつの趣味、いつでも復活する準備はできている。

妻とはお見合い結婚。中学から高知市で進学し、長く室戸を離れていたのに対し、室戸育ちの妻の方が地元では顔を知られていたのので、婿養子と思った人もあったとか。

「テレビやネットで誰でも情報を得られる時代。室戸の“はしかい（気が短い）”人にも舌の肥えた都会の人にも、間違いなくうまい魚を食べてもらいたい」。だからこれからも、正直に売っていく。

有限会社 浦戸屋商店
岡峯利明

室戸じと、 進む。